

新春県政座談会

すでに去つた過去の一年を想い今年も良い年でありますように、或は今年こそ良い年でありますように……と、私たちの気持にはいくらかの違いはあつても、しかしやはりこの一九五九年の新しい年にかけて期待というものは又ひとしく大きなものだ、ということができます。

そこで、皆さんの郷土をあづかる県政全般について、ただいまから県庁各部課の次長、課長さん方にお集りいただき、県政の根幹というものを織りこみながら、さらにくわしく、過ぎ去つた一年と新しい年にかけた期待の県政についてお話をひろげてもらい、これを県民の皆さんと共に考えながらその内容を追つてゆきましょう。

出席者

企画第一課長	松下 勝
第二課長	森 永 電 三
広報課長	村上 清 蔵
財政課長	川端 止 才 夫
経済部次長	島津 隆 三
社会課長	重石 憲 明
公衆衛生課長	守 住 憲 明
林業課長	新 生 要

イメージに刻んだ十大ニュース

本田 皆さん、明けましておめでとうございます。新春早々、こゝに皆さんのお集りをいただきましたのは、過ぎ去つた昭和三十三年の県政一年の歩みをふりかえりながら、これまで着実に実績を積みあげてまいりました計画建設の姿を、各部皆さんの中から披歴していただきまして、こゝしの事業計画とともに県の将来の姿を県民の皆さんといつしよに描き出してまいりたい、というわけがあります。

昨年は、両陛下の行幸啓のあと、例年の水害とはまるで対照的なかんばつに見舞われたりいたしました、なんとなく起伏の多かつた年ではなかつたかと思われるのですが、一ツこの辺で昨年の県行政の面から眺めた十大ニュースというものをそれぞれ拾つてまいりたいと思ひます。

ではまづ、村上課長からどうぞ……

村上 やはりまづ春も半ばの緑化行事とのお手植に天皇、皇后両陛下を本県にお招きして、産業、民生などの各施設を詳さにご覧いただいたことですね

本田 第一は行幸啓とお手植ということですね（一同肯く）

島津 さつき、本田次長の挨拶の中からはんばつのがちやよつと出てまいりましたが、早害は相当の被害がありました皆さんご承知のように水稲早期栽培の種作は大豊作なんです、今年の豊作は何といつても、この一万亩歩に及んだ早期栽培の実績がかなりモチを云つた結果だということも云えると思ひます。

松本 すこし時期が前後しますが、四月早々公営企業である県営有明海自動車航送船組合の多丸丸が長崎県

比良と本島の長洲とを結んで定期運行を開始したんですがこれによつて本島の北部の経済、交通、観光に大きな変化を与えて参つたことです。

本田 なるほど、フエリーボートの就航ということですね、次に四ツ目は？

重石 私の方から一ツ明るいニュースを……それは、敬老年金制度が本県にも設けられたことです。これはたしかに、なんとなく目立たない社会面へのビッグニュースぢやないかな。米寿の祝を越えられた高齢者の方に県民みなさまの敬老の気持ちをこめてお贈りしたわけですが年金も月額三千六百円でさやかな額でしたが実施してみますとお老人の方からはもとより各方面から非常な賛意を寄せられて本県に県民がしみじみと心温まる思いをしているところですよ。

村上 七番目ニュースとしていささか国際色をおびてきますが、ちょうど昨年がブラジル移住の五十周年に当りましたので、その式典に参列のため、海外移民全国一である本県の榎井知事が三笠宮殿下にお供して渡伯されました。このあと、知事が本県に帰られてから、駐日ブラジル大使を当地にお招きして盛大な記念祭と歓迎祝賀会を催し、かたわらブラジル展などで海外移住の普及啓もつを図つたことでもあります。

本田 では、私の方はこれぐらいにして、限部 限部の私の方にもう一ツでつかいのがある

一同 全くそうですネ
本田 では次のちよとまん中の頂点に来たところで、一ツダイナミックなもの……多目的ダム市房県管発電所の起工式ということになりますネ、これはいま改めて申し上げるまでもなく、球磨川総合開発の根幹事業であつて、治山治水を始め、すでにダム建設と並行しておしよめて南水利水の畑地かんがいや土地改良など、これら一連の事業がその緒についた……まあ、このよる意義として大きくとりあへべきだと思います。

るんですが、それというのは、一万吨級船舶を完全に横つけできる八代港の修築整備が八月から着工になったことですね。

村上 まあ、これによつて、臨海工業地帯造成のために、八代港が近く重要港湾に指定されることも当然行けられるわけですね。

本田 いま八代港が三ツ角港あたりはどうなんでしょうか……

限部 三ツ角港はいまさかん貿易港というところですが、これは経済部の島津さんの受持ではないですかネ

島津 え、では私がパトンを受けました。先づ、三ツ角と沖繩とを結ぶ定期航路がひらかれた、ということをお申しあげなければなりません、これは勿論、沖繩との貿易が漸く促進されつ、あることを意味するものでありまして昨年の暮、沖繩で開催された日本商品の見本市では、本県からも特産物を始め生活必需品など多数の品物が出品され、これが一応の成果をあげて帰りましたので、今後、沖繩貿易の見とおし先が明るくなつてきた、ということが出来ると思ひます。

本田 さていよいよ最後の十番目ということになつてまいりましたが、この十大ニュースの締めくくりとして、すこし地味なところで、何か……

大きなモノはたいい出てしまつた感じだが、どうか、財政の面から

川端 ちや私の方からその最後を承りましょう。財政つまり予算はすべて、いままてに出でた事業の投打影なんですから、とくにニュースとして出すのであれば、やはり、本県の財政再建整備計画が二年間短縮された、ということになりまうね、これは、三十一年度法律の適用をうけてから七年間すなはち三十七年度までに消費なければならなかつた赤字を五年間に縮めて解消できることになつたわけで神武景気などの経済条件が主なる理由ではあります

本田 再建期間の短縮と災害積立金の効果というか、それを十番目のニュースとして、これで十大ニュースが揃つたわけですね。願ひみて、いろんなことがあつた、しかし、やるべきことを着々とやつてきたという思ひがします。